

評価結果公表票

作成日 平成21年10月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0272501347
法人名	社会福祉法人 誠友会
事業所名	グループホームいこいの森
所在地	青森県おいらせ町緑ヶ丘1丁目50-2077 (電話)0176-57-5734
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年7月13日

【情報提供票より】(平成21年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 人, 常勤換算 14人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 30,000 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4)利用者の概要(平成21年6月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	14 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 69 歳	最高 101 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	下田診療所 あとむら歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人で多種多様の施設を経営しており、利用者の入退居時の連携も含め、利用者の身体状況の変化に応じた支援を行える体制が整っている。
 管理者のもとに、全職員が利用者に寄り添い共感するケアの実践に取り組んでおり、事業所の理念の他に、日々のケアの12カ条も作成し、利用者一人ひとりが、ありのままに日々を過ごせるように、職員の意思統一が図られている。
 近隣住民との交流も積極的に行われ、地域の小学校の交流や、近隣の保育園児の慰問や手紙の交流のほか、管理者が行政の地域密着型サービス運営推進委員を委託されており、実践経験の地域への還元にも積極的に取り組んでいる。
 管理者は職員個々の質を高めるために、年間研修計画を作成し、必要に応じて研修に参加させている。情報の変化にも対応可能な、システム作りにも力を入れるなど、前向きに取り組んでいる。
 訪問看護師が週1回、利用者の健康管理を行う体制となっているほか、24時間の医療連携体制や終末期や重度化に対する指針も整えられ、入居時から利用者や家族、医療関係者との話し合いを行ったり、意思確認書を取り交わすなど、希望に応じた最善のケアを提供できるよう支援している。

【特に改善が求められる点】

特になし。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果が出た際には、全職員で改善に向けた検討を行っており、ホーム全体でサービスの質の向上に繋げるよう取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者や全職員は会議やミーティングなどで、評価の意義について、理解を深めており、自己評価は管理者を中心に意見交換を行って作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、家族の代表も含め、日々の取り組みや自己評価、外部評価結果、緊急時の地域の協力体制などについて話し合いを行っている。</p> <p>また、会議で出された意見をもとにホームの方針を検討するなど、今後の運営に反映させるように努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>玄関に苦情箱を設置し、ホーム内に内部・外部苦情受付窓口を明示しているほか、面会時に家族に声がけをし、意見や要望を引き出すように働きかけている。家族から出された意見や苦情は日々のサービスに反映させる取り組みを行っている。</p> <p>また、年3~4回発行している広報誌で、暮らしぶりやサービス提供状況について報告しているほか、受診ノートを活用し、訪問看護や定期受診等の情報を記入して、面会等に報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、隣接するコミュニティーセンターでの地域高齢者交流に参加したり、散歩時の交流等で近隣の住人によく知って貰おうと努めている。また、運営推進会議等を通じて商店街との関わりを深める支援を行っている。さらに、地域の小学校の交流や、近隣の保育園児の慰問や手紙の交流のほか、管理者が行政の地域密着型サービス運営推進委員を委託されており、実践経験の地域への還元にも積極的に取り組んでいる。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>「利用者一人ひとりが住みなれた地域や自然と触れ合いながら、地域の一員として、楽しく自由にありのままに、残された力で、暮らしの喜びをと自身を持てるように支援します」という独自の理念を全職員で掲げ、実現に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>地区のグループホーム連絡協議会に加盟し、地域会議に参加するなど、他事業所との研修や交流の機会を持っている。また、近隣のグループホームとの交流やレクリエーションも行き、同業者との交流、連携を通じて、お互いのサービスの向上や職員の育成に繋がる取り組みをしている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>事前の見学を促がしたり、家庭訪問を行うなど、ホームの雰囲気を感じてもらうほか、利用者や家族の意向を把握する取り組みを行っている。また、利用者や家族が安心して相談できる雰囲気作りにも努めている。</p> <p>一人ひとりの気持ちを理解し、良い関係を作ることを目指している。また、利用者の個性を生かし、畑仕事や園芸、食事の準備などを職員と一緒にいき、お互いに支え合いながら過ごしている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>センター方式を土台にして独自のアセスメント票を作成し、利用者の意向を重視し、情報を多角的に捉え、その人らしい暮らしの実現に取り組んでいる。また、利用者毎の担当職員が中心となって全職員の意見交換を基に作成しているほか、必要に応じて家族等からも情報収集を行い、個別具体的なものとなっている。</p> <p>訪問看護ステーションとの連携を図り、24時間の医療連携を整えているほか、訪問看護師は週1回健康管理に訪れている。かかりつけ医への送迎は利用者や家族の要望に応じて柔軟に対応している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>一人ひとりのペースを尊重した支援を心掛け、「してあげるケア」から「一緒に過ごすケア」を目指し取り組んでいる。個々のその日の体調等に応じた柔軟なケアを提供するように努めている。</p> <p>商店街と公園、コミュニティーセンターが隣接しており、散歩を日課として取り入れている。また、お祭りやお花見等、季節毎の習慣や行事を取り入れた外出支援が行なわれている。外出の際は、利用者の身体状況に合わせて移動距離や移動手段等に配慮している。</p> <p>災害発生時に備えて、飲料水、ポータブルトイレ、綿毛布などを敷地内の倉庫に備蓄している。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者および職員は、地域密着型サービスの役割を担うという自信を持って日々のケアを提供している。また、開設以来の理念を見直し、利用者一人ひとりが住みなれた地域で暮らせるようにとの内容を盛り込んだ、事業所独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と全職員は、朝のミーティングで理念を唱和することで、共有を図っており、管理者の指導のもとに精神面のケアを重視する姿勢で取り組み、全職員で作り上げた理念を大切にその実現に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入しており、隣接するコミュニティーセンターでの地域高齢者交流に参加したり、散歩時の交流等で近隣の住人によく知って貰おうと努めている。また、運営推進会議等を通じて商店街との関わりを深める支援を行っている。さらに、地域の小学校の交流や、近隣の保育園児の慰問や手紙の交流のほか、管理者が行政の地域密着型サービス運営推進委員を委託されており、実践経験を地域の取り組みに還元することにも積極的に行っている。外部の方を受け入れる際は、利用者のプライバシー等に関して管理者から十分に説明を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議やミーティングを通じて、評価の意義について理解を深めており、職員は評価の狙いや活用方法を理解し、自己評価は全職員で取り組んでいる。また、外部評価の結果を基に、積極的な姿勢で改善に取り組み、介護者のケア技術の向上を目指している。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町役場担当課、包括支援センター、民生委員、家族代表のメンバーからなる運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、自己評価や外部評価の結果を報告するほか、認知症の学習等にも取り組んでいる。職員は委員が意見を出せるような進捗に努めながら、ホーム運営の貴重な意見を収集し、サービスの質の確保、向上に繋げている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へ広報誌を配布し、自己評価や外部評価結果を提出するなど、ホームの現状を報告している。また、利用者に関する諸問題での相談のほか、管理者が地域ケア会議の委員として活動するなど、行政との連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業等に関する外部研修を管理者が受講したり、内部勉強会を実施し、全職員が制度に関する理解を深めている。現在、制度の利用者がいるほか、必要に応じた情報提供や支援に繋げる準備が整っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止関連法に関する研修を受講し、その内容を会議などで職員に伝えており、職員は理解を深めている。また、管理者による、認知症ケアにおける職員の指導と観察が行われ、未然に防ぐよう努めている。虐待を発見した場合の対応や報告の流れに関して取り決めがあり、全職員に周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者や家族に事業所の理念、ケアの方針や取り組みなどについて十分説明し、同意を得ている。また、退居の際には、利用者や家族等に不安を与えないよう、退居先の情報提供を行うなどの支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年3～4回発行している広報誌で、暮らしぶりやサービス提供状況について報告している。また、受診ノートを活用し、訪問看護や定期受診等の情報を記入して、面会等に報告している。利用者毎にお小遣いの出納簿を用意し、定期的に家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、ホーム内に内部・外部苦情受付窓口を明示しているほか、面会時に家族に声がけをし、意見や要望を引き出すように働きかけている。家族から出された意見や苦情は日々のサービスに反映させる取り組みを行っている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、利用者を第一に考えたケア方針で、職員の指導に臨んでおり、担当職員の交代のリスクを十分認識している。また、職員の異動や退職、新任職員の配置の際は、利用者には十分説明を行い、職員間で引継ぎを十分行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成しており、管理者は職員の力量に応じて、研修を受講させている。研修後は報告書を提出し、会議や内部研修で共有を図っている。また、管理者はスーパーバイザーの役割を果たしており、職員の日々の業務等に助言を行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会に加盟し、地域会議に参加するなど、他事業所との研修や交流の機会を持っている。また、近隣のグループホームとのレクリエーションも行い、同業者との交流、連携を通じて、お互いのサービスの向上や職員の育成に繋がる取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の見学を促したり、家庭訪問を行うなど、ホームの雰囲気を感じてもらうほか、利用者や家族の意向を把握する取り組みを行っている。また、利用者や家族が安心して相談できる雰囲気作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの気持ちを理解し、良い関係を築くことを目指している。また、利用者の個性を生かし、畑仕事や園芸、食事の準備などを職員と一緒にやり、お互いに支え合いながら過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	身体状況や生活歴などを把握できるアセスメント様式を取り入れており、家族の協力を得ながら、入居前の生活や経験などを把握するようにしている。また、利用者とのコミュニケーションの中から一人ひとりの思いや意向を引き出すように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を土台にして独自のアセスメント表を作成し、利用者の意向を重視し、情報を多角的に捉え、その人らしい暮らしの実現に取り組んでいる。また、利用者毎の担当職員が中心となって全職員の意見交換を基に作成しているほか、必要に応じて家族等からも情報収集を行い、個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の作成日及び実施期間を明示しており、3ヶ月ごとに評価、見直しを行っている。また、状態変化時には随時の見直しを行っている。見直しの際は、状況変化の説明や意向の聞き取り等を含め、再アセスメントを行っている。職員は、毎日のケア場面での利用者や家族との関わりの中で、常に観察を怠らない支援を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションとの連携を図り、24時間の医療連携を整えているほか、訪問看護師は週1回健康管理に訪れている。かかりつけ医への送迎は利用者や家族の要望に応じて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個々の詳細な受療経歴を把握しており、利用者・家族が希望する医療機関への受診を支援している。また、訪問看護と主治医との連携が図られているほか、併設デイサービス看護師に、いつでも相談が出来る体制が整っている。個々の受診ノートを基に主治医・訪看・家族と話し合い情報の共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに対応しており、指針を整備している。また、入居時から利用者や家族、医療関係者との話し合いを行ったり、意思確認書を取り交わすなど、希望に応じた最善のケアを提供できるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケアの12か条を掲げ、全職員は利用者一人ひとりの個別性を尊重し、利用者の立場に立った声掛けや介助を行っている。また、職員は個人情報保護法について理解しており、利用者の個人ファイル等は事務室に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重した支援を心掛け、「してあげるケア」から「一緒に過ごすケア」を目指し取り組んでいる。また、個々のその日の体調等に応じた柔軟なケアを提供するように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みや苦手なものに配慮している。また、利用者は個々の体調や意思に応じて、調理の盛り付けや後片付けなどを一緒に行っている。職員は利用者と同じテーブルに着き、会話を楽しみながら食事を摂るなど、和やかな雰囲気となるよう配慮している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴できる体制が整っており、利用者の意向に沿った入浴支援を行っている。職員は利用者が安全に入浴できるように見守りを行っているほか、入浴を拒否する利用者には足浴を促したり、タイミングを見て、声をかけるなどの工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	独自のアセスメント票を活用し、生活歴や経験などを詳細に把握し、農作業や貼り絵、家事等利用者一人ひとりが生きがいとして役割りを持てるよう支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	商店街と公園、コミュニティーセンターが隣接しており、散歩を日課として取り入れている。また、お祭りやお花見等、季節毎の習慣や行事を取り入れた外出支援が行なわれている。外出の際は、利用者の身体状況に合わせて移動距離や移動手段等に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部研修において全職員が身体拘束について理解しており、拘束の無いケアを提供している。やむを得ず、身体拘束を行う場合は、家族に同意を得て記録を残す体制が整っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵を掛けていない。また、居室等に鍵を設けていない。職員は利用者の動きを常に観察するケアを実践しており、外出傾向を察知した際は付き添っている。やむを得ず施錠を行う場合はその都度家族に説明し同意を得るほか、無断外出時に備え、近隣からも協力が得られるよう働きかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時マニュアルを作成し、昼夜を想定した避難訓練を年2回実施しており、訓練を通じて消防署や警察署、地域住民からの理解と協力が得られるよう働きかけている。災害発生時に備えて、飲料水、ポータブルトイレ、綿毛布などを敷地内の倉庫に備蓄している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設デイサービスの栄養士の助言を得ながら管理者が献立を作成しており、一日の総摂取カロリーや水分摂取量を把握しており、利用者毎に記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策マニュアルが作成されており、関連機関からの最新情報に応じて、随時の見直しを行っている。また、流行時期に合わせ内部研修会を実施している。感染症に関する情報を、面会時に提供するなど、家族への周知も図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファ、廊下には椅子などを配置し、家庭的な雰囲気となっている。各ユニットには季節の生花や折り紙細工、置物などが飾られているほか、職員の立てる物音や、テレビの音量は適切で、快適な空間になっている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇を持ち込んでる方もおり、家族の写真や趣味の品、絵やこぎん刺しの作品なども飾られている。また、利用者にとって居心地のよい空間となるよう、職員と一緒に一人ひとりに合わせた居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。